

眞青な中より實梅落ちにけり

藤田湘子

かつて一度だけ実梅採りをさせてもらつたことがある。農地や畑を持つていなければ、自分で実梅を採る機会などめつたに無い。鷹俳句会の先輩の実家へ仲間たちと出かけ、丸々と太つた青梅を一個一個手でもぎ取り、その夜、教えられた通りに梅酒を作つた記憶がある。

青梅には青酸が含まれているから危険だとは知りながら、誘惑に負け、採りながら酸っぱい実梅を五、六個は齧つた。勿論、青酸の多い種は吐き出したのだが。

「眞青な中より」とは、梅の枝や青葉の密集した真上、あたかもその上に広がる青空から、樹間を突き抜けて落ちてきたような錯覚さえ覚える。何故か、飯田龍太の「白梅のあと紅梅の深空あり」が浮かんだ。

1985年 (s60.06.19作) 第八句集『黒』 鑑賞・轍郁摩